

スイス

前衛派の雄、インタクトがロンドンで12日間にわたるライブを開催



アレキサンダー・フォン・シュリッペンバッハ(左)トリオ(4/21)。中央はC.パーカー、右はP.ローベンス。 Photo:Manfred Rindler-Speiser

1986年にイレーネ・シュバイツァー盤を第1回発売作としたIntakt Recordsが、国外でのPR活動にも力を入れている。250タイトルを超えるカタログは、ヨーロッパにとどまらず、オリバー・レイク+レジー・ワークマン+アンドリュー・シリルのトリオ3やジム・ブラック等、米国人の制作も手掛けており、欧米の注目すべき前衛派に目配りしたレーベルとして、存在感を示しているの

が見逃せない。

4月16日から27日にはロンドンの“ヴォルテックス・ジャズ・クラブ”で、レーベルのショーケース・ライブを開催。アレキサンダー・フォン・シュリッペンバッハ、エバン・パーカー、ハワード・ライリー、バリー・ガイ、ルーカス・ニググリ、高瀬アキ、イングリッド・ラブロック、ルディ・マホール、マーク・フェルドマン、シルビー・クールボフジェらが出演した。詳細な解説を収録するブックレットも含めて、価値ある音楽を伝えるポリシーが独自の個性を放っている。

アメリカ

ジャック・デジョネットらのオールスターズが始動

今年75歳を迎えるドラマーのジャック・デジョネット(1942年8月9日生まれ)が、節目を記念してスペシャル・プロジェクトを本格始動させる。“ハドソン”と名付けられたグループは、ジョン・スコフィールド(g)、ジョン・メデスキ

(key)、ラリー・グレナディア(b)とのカルテットで、メンバー全員がニューヨーク州ハドソン川流域地帯に在住していることに由来する。彼らは2014年の《ウッドストック・ジャズ祭》に出演歴があり、グループ名を冠したスタジオ録音のデビュー作「ハドソン」(Motema Music)を完成。全11曲の内訳は同名のタイトル・ナンバーやブルース・ホーンズビーとの共作(ダーティ・グラウンド)等、デジョネット作の4曲と、(トニー・ゼン・ジャック)等、スコフィールドの2曲に加えて、ボブ・ディラン(レイ・レディ・レイ)、〈はげしい雨が降る〉、ザ・バンド〈アップ・オン・クリッブル・クリーク〉、ジミ・ヘンドリックス(ウェイト・アンティル・トゥモロー)、ジョニ・ミッチェル(ウッド・ストック)といったロック〜ポップスのカヴァー曲を収録しているのが特徴だ。米国では6月9日発売。また発売直後から始まるツアーのスケジュールも発表された。

6月8日のSFジャズセンターを皮切りに、10日〈プレイボーイ・ジャズ祭〉、25日〈サラトガ・ジャズ祭〉、30日モントリオール等、6月は北米で6回の公演。その後8月6日〈ニューポート・ジャズ祭〉、9月2日〈デトロイト・ジャズ祭〉を経て、10月にはNY、ボストン、セントルイス等、9回の公演が決定している。

メンバーのコメントは以下の通り。「この地域はミュージシャンにとって静かに過ごせる場所であり続けています。演奏もできるし、作曲、練習、成長、探求のすべてに適しています。伝統的には特に探究と成長を求める人々がこの地へやって来るのです」(メデスキ)。「バンドの全員が都市でキャリアを築き、子育て



イレーネ・シュバイツァー(4/18) Photo:Francesca Pflögl



高瀬アキ(4/18) Photo:Manfred Rindler-Speiser